



むだなピースはありません

校長 藤森克彦

3学期始業式はオンライン生配信ではありましたが、5年生が3学期の抱負についてあいさつしてくれました。4人とも話す内容は原稿用紙1枚程度でしょうか。児童のあいさつにはかなりの分量ですが原稿は見ずに頑張っていて、皆の手本となる立派な態度でした。原稿を見ないとするとその緊張感からか、子どもでも途中で記憶がとんで一瞬言葉が詰まってしまうことがあります。見ている我々大人も冷や冷やしますが、手を差し伸べるすべもなく本人の記憶が回復するのを待つしかありません。そうした沈黙の時間は実際ほんの数秒のことですが、見ている全校の子どもたちもかたずを呑んでいます。話が再開するとほっとした気持ちが満ちていくのを感じます。

代表であいさつするとき、原稿を見てもいいことにするのか見ないようにするのか迷うところです。暗記だと口調が棒読みのようになったり、言葉に詰まったことが原因でトラウマになったりしてしまうかもしれません。しかし発達段階にもよりますが、本校ではできるだけ原稿を見ないように働きかけています。それは、見栄えがいいとか暗記力が育つとかが理由ではありません。できるだけ自分の本心で本当に言いたいことを自分の中ではっきりさせ、胸を張って皆の前で伝える経験をしてほしいからです。途中で言葉に詰まったとしても、伝えたいことがイメージできていれば、自分の言葉で最後まで話すことができます。たとえ失敗してもその経験がどこかで実を結ぶ時があること信じて、チャレンジしてみる機会を大事にしたいと思います。

さて、以前、宇宙飛行士になるための試験の一つに、絵のない真っ白なジグソーパズルを完成させるというものがあって聞いたことがあります。ジグソーパズルは完成した絵が前もって分かっているので「やってみよう」という気になりますし、だんだん完成に近づいていくと喜びも湧いてきます。しかし、すべて真っ白なピースだと形だけが頼りで、しかも完成図がないのでやる気も喜びも期待できません。それで「これ、何のためにやるんですか」と質問した人はまず宇宙飛行士の選抜から外されるようです。そして「はい、やめてください」という合図のあと、「ここまでしかできませんでしたが合格ですか？不合格ですか？」と質問する人も落とされます。

どういう人が宇宙飛行士に適しているかということ、時間切れで終わったあと「これ、持ち帰っていいですか？中途半端で終わると気持ち悪いので、持って帰って完成させたいんです」という人だそうです。宇宙船の中は狭く、4、5人の仲間とずっと一緒に過ごします。だから協調性が求められます。言われたことを素直に受け止め、淡々と忍耐強く仕事や活動に取り組める人でないといけないというわけです。

作家、喜多川泰さんの著書『賢者の書』の中でこんなたとえ話があります。ある人がジグソーパズルの1個のピースを手に入れました。それはシマウマの頭の部分の絵でした。次に手にしたピースはシマウマの首の絵柄でした。「これはここだ!」、喜んでそれを頭のピースの横にはめ込みます。ぴったり合うとうれしいので、またその隣のピースを捜し求めます。ところが次に手にしたのは黒一色のピース。どこの部分なのか全くわかりません。もし完成図がわかっていたら、そのパズルを完成させるのに必要なピースであることはわかります。しかし完成図がないパズルだったら、そのピースがパズルの一部であることすらわからないので、大切にしておくこともしないかもしれません。

この物語に登場する主人公の少年は、出会った「賢者」からこのジグソーパズルの話を教えられます。「大きな絵、それは大きな夢を思い描く。そしてその夢の実現のために行動を起こす。行動の結果、手に入るものは失敗でも成功でもない。絵を完成させるために不可欠なピースの一つである」と。

そして賢者の教えは続きます。「1個のピース(行動の結果)は、自らの思い描いた絵を完成させるためにどうしても必要なのだ。絵が完成したときに、あのわけのわからなかったピースがどこでどう使われているのかがようやくわかるんだ。あのつらい経験もここに使われることになっていたんだな。あの失敗がなかったらここを埋めることができなかつたんだな、といった具合に…」

行動や経験の結果として手に入れたピースには失敗も成功もありません。自らの思い描いた絵を完成させるため、どうしても必要であるからこそ手元にやってきたと考えたいです。

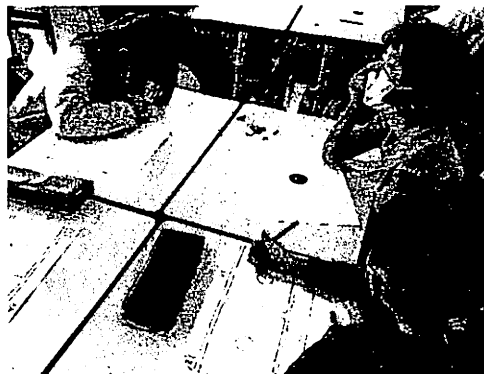
「図工も大好き！2年生」

入学してから2年が経とうとしています。この学年の子どもたちは、どのような活動にも「楽しそう」「早くやってみたい」と言いながら目をきらきらさせて意欲的です。その一端として2学期の学習発表会では、英語や音楽、体育を日頃から生き生きと学習している様子をお伝えすることができたと思います。

3学期の図工では1月から2月にかけて、「あなのむこうはふしぎなせかい」という題材に取り組んでいます。今回は学校内での研究も兼ねて、中元早紀子教諭が全クラスの指導にあたっています。クレヨンで描いた自分の分身が、穴をくり抜けてたどり着いた世界はどんな世界だろう…。描きたい世界について、1年生で学んだシンキングツールのウェビングなども上手に使って、思いを巡らせてアイデアを書き留めました。また、友達との交流で想像をさらに広げた後、描きたい世界を選んでこれから画用紙に描いていきます。



<題材とめあてを確認する>



<対話をもとに考えを深め、広げる>

このように2年生の図工では年間を通して、「互いの考えを伝え合うとともに、対話をもとに自分の考えを広げ、深める活動」（自己・調整を育成する活動）を特に重視して指導してきました。低学年の図工では、ともすればテーマや画材を手にし、手本を見ただけですぐに制作を始めてしまうことがあります。しかし、幼稚園や保育園で既に経験している表現活動だからこそ、小学校低学年のうちに自分でじっくりと考えたり友達と交流したりすることで自分の考えを広げる体験を重ね、新しい考えを作り出す活動になるように導く必要があります。このような活動は低学年だけで終わらず、中学年以降の表現活動につながるよう、図工専科の森はづき教諭と連携して指導を工夫しています。

子どもたちはこの学習で、描きたい世界を考えたり、友達と交流したりする過程で新たな考えに気づき、それをまとめていくことの楽しさを味わっています。2年生で身に付けた力を3年生、そしてそれ以降の生活で生かせるよう、学年一丸となって指導してまいります。

「フレンドまつり」

12月に行われた「フレンドまつり」では、1～3年生を率いて各クラスのお店を回るリーダーを務めました。下の写真にもあるように、しっかり下級生をリードして活動を盛り上げ、有意義な時間となりました。4年生として一つ一つの行動に責任をもち、役割を最後まで果たすことができました。



＜待ち時間も楽しめるように声かけ＞



＜1年生を率先して誘導＞

「二分の一成人式」

4年生では、2月18日（土）に「二分の一成人式」を行います。式では、一人一人のこれまでの成長を振り返り、今後の自分について考えを深め、自分の思いや願いを発表します。

現在は、自分の保護者や幼少期を知る人にインタビューをし、これまでの成長記録をまとめています。幼少期の様子や写真から、一人一人が自らの成長と周りの人々の支えを感じ、自分の思いとともに表現する姿が今から楽しみです。

「高学年に向けて」

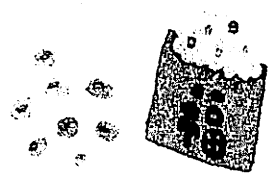
4年生の3学期は「5年生の0学期」とも言われ、高学年に向けてのスタート期間にあたります。5年生の時には、学級や学年のために進んで行動できるようになってほしいと考えています。上記のようなこれまでの経験や3学期での経験を生かし、様々な場面で自ら考え、行動できるようになってほしいです。それらの経験の中で、充実感を得られれば、それが自信となり高学年になったときの原動力となります。

今まで立派な5・6年生の背中を見て過ごしてきた4年生。一人一人がさらに活躍し、輝いていけるよう担任一同支援していきます。



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」
 今月の生活目標

生活のめあて	静かに歩きましょう
保健のめあて	うがい・手洗いをしましょう
給食のめあて	食事のマナーを考えて食べましょう



2月の行事予定

今月の
 避難訓練は
 予告なしで
 行います。

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	水		15	水	品川教育の日
2	木	フレンドタイム⑧ (1~5年)	16	木	
3	金	委員会⑩	17	金	児童集会 子どもを笑顔にするプロジェクト (和太鼓)
4	土		18	土	土曜授業 二分の一成人式 (4年)
5	日		19	日	
6	月	安全指導	20	月	定期考査 (6年)
7	火	放送朝会 入学説明会 (14:00~)	21	火	放送朝会
8	水	午前授業 環境集会	22	水	
9	木		23	木	天皇誕生日
10	金	保健集会 クラブ⑨ (最終)	24	金	音楽朝会 委員会⑪ (最終)
11	土	建國記念の日	25	土	
12	日		26	日	
13	月	セーフティ教室 (6年)	27	月	すくすくスクール (最終)
14	火	放送朝会	28	火	校旗引き継ぎ式 フレンドタイム⑨6年生を送る会

生活指導部より

生活指導部： 上埜 和也

2月の生活目標は「ろう下を静かに歩こう」です。そもそも廊下は走るところではないのですが、廊下を走る人がいなくなれば、廊下でケガをする人が減ります。安全な生活を送るための大切なルールです。

「安全」は学校生活で最も重視されるべきものの一つですが、廊下歩行が改善することで私たちがもう一つ得られるのが「落ち着いた空間」です。いつも誰かがあわただしくしている空間より、余裕をもって行動している人が多い空間のほうが、学習にふさわしいはずです。児童はもちろん我々教員もその日の活動の見通しをもち、走る必要がなくなるよう行動したいものです。

数年に一度の寒波が来るなど、寒さが厳しくなっています。感染症にもまだまだ配慮が必要です。「うがい・手洗い」を引き続き徹底していきます。「安全」で「落ち着いた」学校生活を元気に送っていきたいと思います。ご家庭でもご協力をお願いいたします。

リレーコラム「かかわる、創る」

3年松組： 森本 睦美

3年生は、先日の市民科地区公開講座で『仕事』について考えました。自分の生活はたくさんの仕事に支えられて成り立っていることを学ぶことができました。そして、それぞれの仕事は見えない部分で繋がりが合っていることも学びました。例えば、給食のカレーライスができあがるまでには、野菜や肉や米を作る人がいて、市場やスーパーマーケットでその食材を売る人がいて、それを運び運送の仕事をする人がいて、献立を考える栄養士さんと調理する調理師さんがいる。さらには、野菜の肥料を作る人、運送で使う車を作る人、ガソリンを販売する人がいる・・・ そここまで掘り下げていくと、私たちの生活は、本当にたくさんの仕事や人々に支えられているのだと気付きます。この授業をきっかけにお家の方と仕事の話をしたという子もいました。これから自分の夢を探し、見付け、叶えていく子供たち。どんな仕事も必ず誰かの役に立ち、社会を創る大切な役割があることを感じながら多くの体験をして学んでほしいと思います。